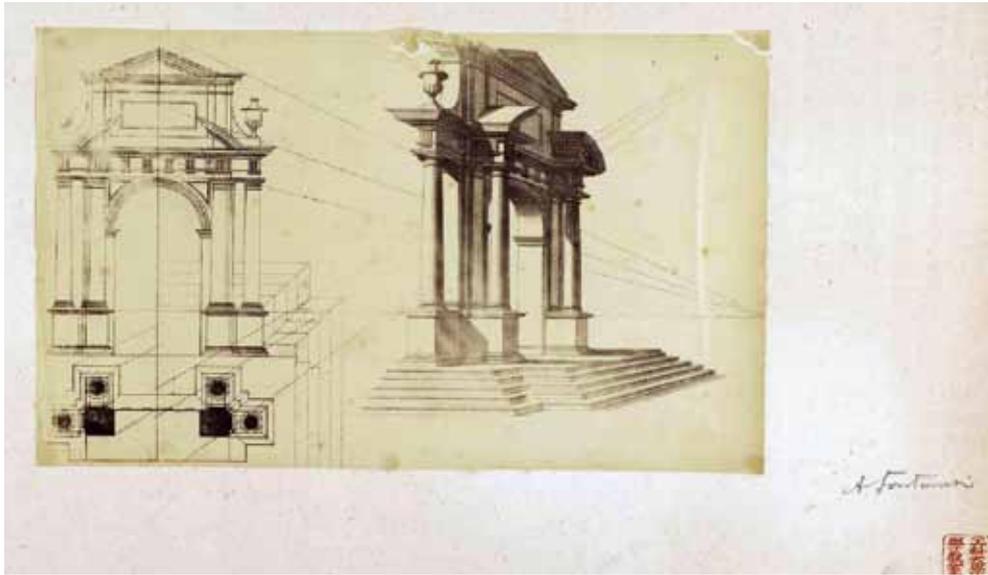
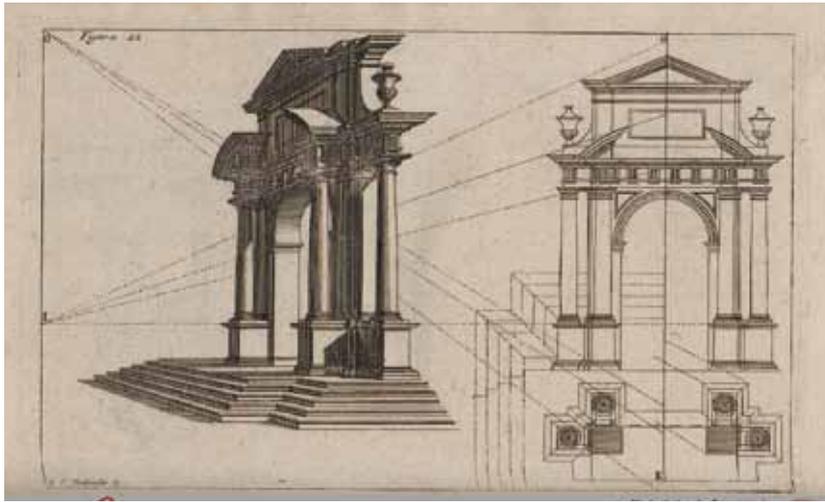


明治期建築学史

角田真弓（東京大学大学院工学系研究科 技術専門職員）著

A5判上製函入 本文四九二頁 口絵八頁 ISBN 978-4-8055-0869-5 C3052

本体価 11,000円＋税



Pozzo『Perspectiva Pictorum et Architectorum』・画手本対照（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻所蔵）

本書は明治期における建築学の形成過程を高等建築教育を通して検討するものである。

軍備、殖産興業を目的とする近代工業は一九世紀半ばより西洋技術を取り入れる形で萌芽するが、建築の場合はこれら洋式の工業器械の施設として、さらには外国人技術者の生活の場として西洋建築の移入が始まる。当初は外国人技術者の指導の下、日本人大工により建設されるが、その後日本人大工の設計による擬洋風建築も各地に建設された。一方で、官立の高等工学教育機関である工学寮工学校（後の工部大学校）が明治六年開校することで、ジョサイア・コンドルにより西洋建築学の教育が始まり、卒業生が主となり全国各地に洋風建築を建設する。このように西洋建築の移入過程が一九世紀の日本近代建築史の枢軸であることは紛れもない事実であるが、移入されたのは建築のみではなく、建築に関わる様々な情報や技術であった。（中略）

本書はこの明治期における西洋技術と情報の移入と受容の様相を、高等教育を中心とする建築に関わる「学」の形成過程をとらえて再検討するものである。
（「序章」より）

著者略歴

角田真弓（つのだ・まゆみ）

東京都出身

筑波大学芸術専門学群卒業 学位 博士（工学）（東京大学）

現在 東京大学大学院工学系研究科技術専門職員、お茶の水女子大学非常勤講師
二〇一〇年 日本建築学会賞（業績）「関野貞資料の調査・公開と東アジア建築文化財への貢献に関する一連の業績」（藤井恵介、早乙女雅博と共同受賞）

現在の「建築学」はいかに形成されたのか。明治期の西洋建築の移入と西洋技術・情報の受容過程を、一次資料の丹念な分析から跡付ける。近代工学教育における建築教育の特性、建築学の学問的領域の確立、建築とその関連領域（「工芸」「図学」「図案」）との境界を明らかにする労作。「建築学」成立期の重要資料を収集した資料篇を附す。

目次

序章

第一部 高等工学教育機関の系譜

序

第一章 明治初期高等工学教育機関の成立

はじめに

- 一 工部大学校と東京大学理学部
- 二 東京大学工芸学部と工部大学校の合併

第二章 工学教育における実習の様相

はじめに

- 一 博物館
- 二 実習の様相

小 結

第二部 明治期建築教育の形成

序

第三章 明治中期の建築教育

はじめに

- 一 中村達太郎の略歴
- 二 工部大学校での建築教育
- 三 明治宮殿造営と造家学会設立
- 四 工科大学で行った建築教育

第四章 明治期における邦文建築書の系譜

- 一 明治以降の建築技術書
- 二 建築書の成立
- 三 後発建築書の傾向
- 四 三橋四郎『和洋改良大建築学』明治三十七年

第五章 関野貞と建築教育

はじめに

- 一 高等教育機関 第一高等学校と帝国大学
- 二 関野が行った講義 工科大学における建築史学
- 三 関野貞の職域

第六章 建築構造学の成立

はじめに

- 一 地震と構造学
- 二 佐野利器の構造学研究
- 三 構造力学の成立

第七章 卒業制作にみる建築教育

はじめに

- 一 選択制講義の導入
- 二 構造班と意匠班
- 三 卒業論文の傾向
- 四 卒業設計の傾向

小 結

第三部 建築における模写・文様

序

第八章 工部美術学校・工科大学における模写教育

はじめに

- 一 工部美術学校における自在画教育
- 二 工部大学校・工科大学における自在画教育
- 三 工部美術学校における模写教育

四 工科大学における模写教育

五 曾山幸彦の画塾 大幸館

おわりに

第九章 建築実習におけるスケッチ、彩色模写、実測図

はじめに

- 一 建築スケッチ
- 二 工科大学における建築実習
- 三 明治期における日光東照宮の評価
- 四 実測図

第一〇章 建築と文様模写

はじめに

- 一 模写事業
- 二 『文様集成』の刊行
- 三 壁画模写

おわりに

小 結

第四部 建築・美術教育と図学・図案

序

第一章 明治初期の図学教育

はじめに

- 一 近世期における透視図法の習得
- 二 幕末維新期における図学教本
- 三 訳語の問題
- 四 明治初期の図学教育
- 五 三書籍の比較

おわりに

第二章 東京美術学校における図案科、建築科設置の背景

はじめに

- 一 建築科設置の動き
- 二 日本人青年建築家 山口半六と辰野金吾
- 三 図案科設置へ

第一三章 工学教育・美術教育における図学

はじめに

- 一 小島憲之の略歴
- 二 工学教育機関における図学教育
- 三 東京美術学校での図学教育

第一四章 図案科の確立と終焉

はじめに

- 一 東京美術学校・東京高等工業学校・京都高等工芸学校における図案科
- 二 三校の比較
- 三 図案学の職能
- 四 「図案」学の射程と限界

小 結

終 章

初出一覧

- 図版一覧
- あとがき
- 索引

二条城正門（セ3）『見取図標本』より（mitorizu_005）（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻所蔵）

関連書籍

中村達太郎 日本建築辞彙《新訂》
 太田博太郎・稲垣栄三 編
 本体価 6,000 円＋税
 東京帝国大学教授・中村達太郎(1860～1942)が単独で編纂、約4000語を収録し、以後の古建築用語辞典のほとんどの淵源であり、学界の一大遺産である名著の新訂決定版。五十音順に並び替え、多くの註を付した。
 A5 判上製カバー装 本文 626 頁 挿図 800 点
 ISBN 978-4-8055-0673-8 2011 年 10 月刊

工部美術学校の研究
 イタリア王国の美術外交と日本
 河上真理 著
 本体価 30,000 円＋税
 日本初の官立西洋美術教育機関である工部美術学校について、その創設から閉校までの経緯を、日伊双方に残る膨大な公文書を読み解くことによって解明し、文化史、美術史、美術教育史観点から考察する。
 B5 判上製函入 本文 640 頁 挿図 81 点
 ISBN 978-4-8055-0637-0 2011 年 3 月刊

関野貞日記 【在庫僅少】
 関野貞研究会 編
 本体価 19,000 円＋税
 古建築研究のパイオニアであり、近代の文化財保護の基礎を築いた関野貞(1868～1935)の記した日記・日録の翻刻。近代日本の文化財行政の発展過程が克明かつ具体的に記述されている重要資料。
 A5 判上製函入 本文 834 頁 図絵 4 頁 挿図 272 点
 ISBN 978-4-8055-0586-1 2009 年 2 月刊

中央公論美術出版
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1
 IVY ビル 6F
 Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱いは